

臨川小だより

9月号

令和4年8月30日(火)
渋谷区立臨川小学校

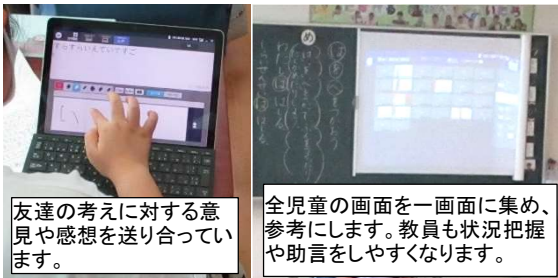
共有する楽しさを味わう授業づくりへ

校長 佐伯 孝司

夏休み明けの教室。久しぶりに会った友達と話し合い、楽しく学習活動を進める様子が見られました。右の画像は、資料を基に一人一人が考えたことをメモして持ち寄り、グループで協議して学級全体に一つの提案をする活動でした。このグループは、自分たちで作った提案文を全員が交代でボードに書いていました。その様子から、よい案を練り上げたことへの満足感を分かち合いたい気持ち、決まったことを全員が大事にしていこうという気持ちがうかがえ、嬉しく思いました。グループからの提案を集め、さらに学級全体でも考えていきます。



このように、児童は学習活動を通じて、はじめにもった自分の考えをよりよいものに練り上げていきます。結論が変わらないことがあっても、話し合い活動を通じて、その理由が増えてより適切に説明できるようになること、自信が増えてよりすすんで取り組むことなどがあります。話し合い活動によって、お互いの考えという財産を共有し、それを活用して自分の考えをさらに広げたり深めたりしていく過程が大切であると言えます。そこで、本校では、他者との「共有」という学習過程を重視して授業づくりを進めていきたいと考えています。



友達の考えに対する意見や感想を送り合っています。

全児童の画面を一画面に集め、参考にします。教員も状況把握や助言をしやすくなります。

お互いの考えを共有する過程を適切に授業の中に位置付けていくための方法として、タブレット端末の活用は、とても有効です。自分の考えを視覚化することで、自分でさらに気付いたり、他者に見せて意見をもらったりすることが多く見られます。席に居ながら意見交換をしたり、多くの人の考えを知り自分に必要な情報を選んで取り出したりすることもできます。

その様子や画面を教員が見取りながら、個別に指導・支援する時間も確保することができます。もちろん、相手と向き合いながら意見交換をする経験も大切にします。先ほどの例のように「みんなで、交代で提案文を書こう」というような思いをもつに至るのは、お互いの気持ちを目の前で感じ合える経験もプラスに働いていると思います。タブレットの画面を持ち合って対面で意見交換をする姿が見えることもあります。「共感的に聞く」力が大切です。

意見を共有するには、自分の考えをもつ段階が必要です。可能な限り言語化して表したり、伝え合ったりすることも大切です。また、考えをもつための知識を身に付けるのに、自分に必要なことを考え、自分にとってよりよいペースで学ぶよう計画・実践・振り返りをする力も育てていきたいと思っています。伝える側だけでなく、聞き手としての役割を学んだり、リアクションや意見を返すときの話し方などを学んだりすることも必要であると考えています。

臨川小学校では、休み中に全教員がこれからの授業づくりについて話し合い、「思いや考えを豊かに表現する楽しさを味わえる授業づくり」というテーマを共有しました。児童が日常の学校生活を楽しく充実したものにしていくことができるよう努めてまいります。



学習者用デジタル教科書を活用し、より個々の課題に応じた学習活動を進めています。



みんな頑張ったね！ありがとう！の拍手